



英語は「耳が良い」時期に始めよう!

白百合女子大学教授 日本LL教育センター理事 高本 裕迅先生



早いうちから英語を学ぶと、どんな利点があるのでしょうか?
 現在、日本の公立小学校でも5,6年生から「外国語活動」が必修となつていますが、今後2020年くらいまでにはそれが小学3年生からとなり、さらに5,6年生では正式教科とすることが検討されているようです。「小学生からの英語教育」が世の中の流れになってきているということですね。

そこで今号では、白百合女子大学教授の高本裕迅先生に、英語を早いうちから学ぶとどんな利点があるのかを具体的にわかりやすくお話ししていただきました。ステップワールド英語スクールでがんばっている小学生のみなさん! 必読です!

耳が良い!

ことばには、いろいろな面があります。もちろん、単語や表現、発音、文法などです。単語や表現というのは、たとえば、「book」(本)という単語を知っていても、「bought」(「買った」という意味ですが、ちょっと難しい単語ですね)という単語を知らなければ、どんなに頭の良い人でも、「I bought a book at that bookstore.」(わたしは、あの本屋さんで1冊の本を買いました)の意味は分かりません。つまり、この文で「本」を知っていても、それだけではいったい本をどうしたのか分かりません。本を読んだのか、買ったのか、借りたのか、貸したのか、あるいは持っていると言っているのか、見当もつきません。ですから、単語をどんどん増やすのはとても大切です。



また、文法も知らなければ、今の例文が「質問」なのか、「お願い」なのか、あるいはわたしが「したこと」について言っているのかも、見当がつかみませんから、文法を知っていることも、大変重要です。そう考えると、勉強することばかりたくさんあって、大変だなと思うでしょう。たしかに、どの国のことばにも、単語はたくさんあって、たくさん知っていればいるほど、読んだり聞いたりして分かることも増えます。

ただ、ここで知っておいてほしいことがあります。単語や文法は、大人になっても、つまり何歳になっても、ずっと学びつづければ、知識は増えていきます。ところが、発音は、「耳が良い」時期に始めないと、アメリカ人やイギリス人などのようには、なかなかありません。そして、英語には、日本語にはない音や、音が変わる現象があるので、耳が良い時期、つまり耳が若々しい年齢、たとえば小学生のときに始めるのがベストです。さっきの「I bought a book at that bookstore.」という文では、「bought a」のところがかっついて発音されるので、たとえばアメリカの英語では「ポーラ」のような発音にな

りますが、いきなり「ポーラ」と聞こえたら、日本人にはまったく分かりません。また、「at that」のところも、2つの単語がかっついて発音されるので、全体の文が、いったいどんな単語が並んでできているのかが、まったく分からなくなってしまいます。

ところが、「耳が良い時期」たとえば小学生から英語を聞きはじめると、ほんの何回か聞いただけで、「あっ、そうか!」と頭に入ります。たとえば、「apple」(リンゴ)という単語の発音も、英語を話す人たちは、話すときには「アポ」というような発音をしますが、小さいころから英語の発音に慣れていない大人の方が聞くと、何度聞いても「apple」に聞こえなくて、苦労してしまいます。でも、小学生のみなさんの耳は天才的に良いので、「リンゴ」=「アポ」で、まったく自然に頭に入ってしまうのです。

この「耳が良い」ということは、外国のことばを習うときには、本当に素晴らしい能力です。さっきの「I bought a book at that bookstore.」も、「アポラブザブックストア」というような、英語を話す人の自然な発音で、自然に頭に入っていくのです。ですから、「耳が天才的な」この小学生の時期に、「音」でどんどん英語を頭の中に増やしていきましょう!

発音がよくなると、何が良くなるのか?

発音が得意なだけで、いったい何が良くなるのでしょうか? きっと、そう思いながら、これを読んでいる人も多いでしょう。まず、英語を話す人たちに楽に通じて、そして、楽に通じると、その人たちは気持ちがリラックスして、あなたのことをすごく近く感じ、心を近づけてくれます。これは、コミュニケーションにとって、すごく得なこと。しかも、英語には、決まり文句のような表現がととてもたくさんあるので、それだけで、まるで本物の英語を話すような発音でそういう決まった表現が言えるようになります。決まった表現というと、たとえば、ハンバーガーショップでお決まりの「こちらでお召上がりですか、それともお持ち帰りですか」は英語では「For here or to go?」と言いますが、こういう決まった表現というのは、1つ1つの単語をはっきり言わないのが普通です。つまり、知らない人には、何を言っているのか分からないような発音が普通なのです。日本語でも、そうですね? わたしなどは、「おはようございます」を「アザーンス」みたいに発音しますが、それを聞いた相手の人に、「えっ、アザーンスって何ですか?」なんて、一度も聞き返されたことがありません。こういう、ちょっと「くずれた」発音が、決まり文句ではあたりまえで、そして、こういうくずれた、自然な発音で丸ごと頭に入ってしまうのが、小学生をはじめとした「若い人」の最大の有利な点です。まったく、うらやましいです!

若いみなさん! 1つ1つの単語や表現を、いったい唇や舌がどう動いて、どう発音しているのかなどと、いちいち分析して考えなくてはならない大人の人(残念ながら、本当の話です)に比べて、丸ごと自然に頭に入るみなさんが、どれだけ有利なのかは、しばらく英語学習を続けていけば、必ず実感できます! ちょっとくずれた、つまり自然な発音のまま英語をどんどん吸収していきましょう。そうすると必ず、聴くのも話すのも上達します。ご家族の方たちも、ぜひ「天才的な耳」のお子さんと同じ目線に立って、一緒に英語を増やしていきましょう!